

組立説明書

電動アシスト自転車

電動アシスト自転車全般用

組み立てをされる方へ

- 組立説明書をよくお読みの上、正しく安全に組み立ててください。特に「安全上のご注意」は、組み立て前に必ずお読みください。組立説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しないで組み立てたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その組み立てが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- 自転車安全整備士、自転車技士(自転車組立整備士)、もしくは同等の技術を有する方が組み立て点検・整備を行ってください。
- 工場より出荷された自転車は社内規格によって正常かつ確実な組み立てを行っており、梱包も損傷することの無いよう配慮しております。しかし、輸送中の振動・衝撃により金属部分の接触面などにナジミが生じ、緩むことも考えられます。車輪の振れ、各部締め付けねじ類を点検・調整の上、完全な商品としてお客様にご販売くださるようお願いいたします。
- 前後タイヤの空気圧の点検をお願いします。
- 製品番号に関しては、「取扱説明書」などでご確認ください。
- 点検などに関して詳しくは、「取扱説明書」をご覧ください。
- 次回の点検からも取扱説明書の裏表紙にある点検・整備チェックリストをもとに確認してください。
- メンテナンスする際にも組立説明書が必要になります。ご購入店様で保管することをおすすめします。

※説明で、図などが多少異なりますが取り扱いおよび組み立て方はほぼ同じです。

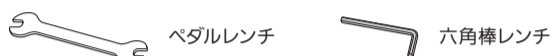
もくじ

安全上のご注意…………… 表紙
 組立方法…………… 2～8
 末組み付け部品明細表…………… 8

お知らせ

●本紙には納品時に組み付け調整済の部品についても、再調整の場合の参考として、組み付け・調整方法を載せてあります。

組み立てに伴う専用工具「ペダルレンチ」と「六角棒レンチ」は担当の支店/代理店にて斡旋しております。



安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

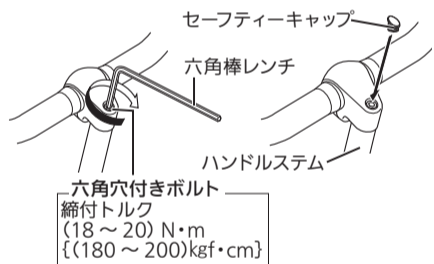
■誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

	警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
	注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

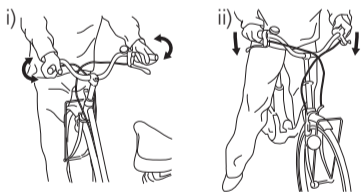
■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

	してはいけない内容です。		実行しなければならない内容です。
--	--------------	--	------------------

④六角棒レンチ(6 mm)で六角穴付きボルトを締め付けて、セーフティーキャップを取り付けます。



- 締め付け後、以下の i)、ii) で固定が十分確認します。
- i) 前車輪を両足ではさみ、両手で握り部を強く左右に回して150 N(15 kgf)、ハンドルバーが前車輪に対して回転しないことを確認してください。
- ii) 自転車にまたがり、ハンドルバー握り部を持ち、内側に絞り込むように体重をかけた左右共220 N(22 kgf)、ハンドルバーが回転しないことを確認してください。



iii) ハンドルの調整、固定後ブレーキレバーを握ってブレーキが利くことを確認してください。

ご注意

<チャイルドシート付きハンドルの場合>

- ①クランプボルト4本(上・下)を仮止めします。
- ②ハンドル手前側の2本(上)のボルトを本締めします。
- ③車体前側の2本(下)のボルトを本締めします。

●必ず左右交互に繰り返し2回以上、増締めしてください。

警告

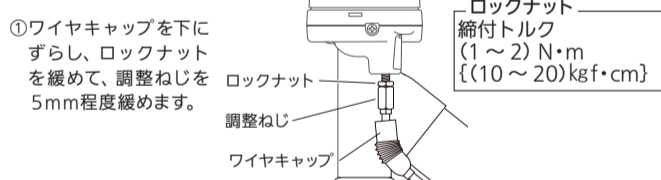
■ハンドルシステムのハイトストップバーを外して、ハンドルシステムを一番下まで下げない
 (固定が不完全になる場合があり、転倒や衝突によるけがのおそれ)

■スタピタの調整・確認<装着車だけ>

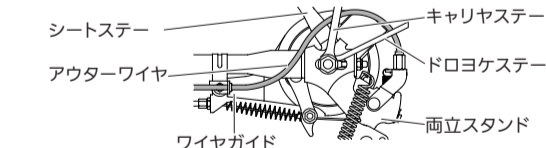
警告

■バンク修理やタイヤ・車輪交換などでスタンドのスタピタワイヤを外したときは、必ずワイヤの調整状態を確認する
 (走行中にハンドルがロックし、転倒によるけがのおそれ)

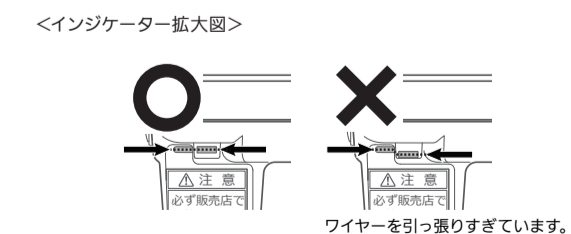
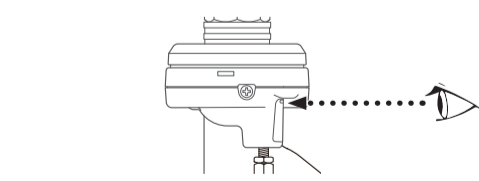
必ず守る



- ①ワイヤキャップを下にずらし、ロックナットを緩めて、調整ねじを5mm程度緩めます。
- ②スタンドを立てた状態にします。
- ③アウターワイヤをワイヤガイドに通します。アウターワイヤはシートステーの外側、キャリアステーとドロケステーの内側を通します。



④インジケータを正面(車体後方・サドル側)から見て黄色い調整ラインが一直線になるように、スタンド側のインナーワイヤを引っ張り、ワイヤ止め用ナットを締め付けて固定します。ワイヤ止め用ナットを締め付け後、もう一度調整ラインが一直線になっているか確認してください。



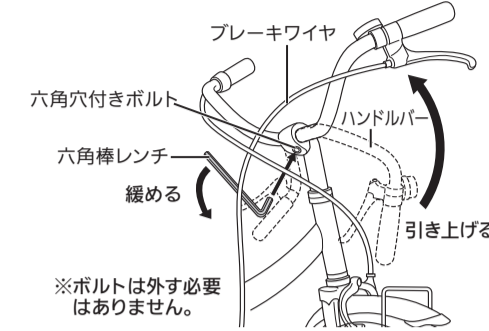
組立方法

■ハンドルバーの調整と固定

お知らせ

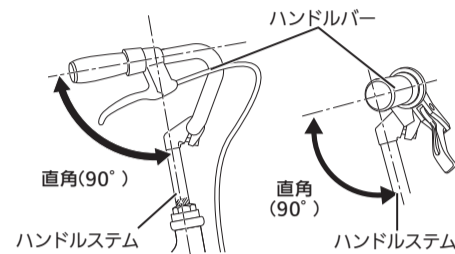
●ハンドルにチャイルドシートを装着している自転車(ギョット・クルームなど)は、納品時にハンドル調整済みです。以下、該当しない箇所は読み飛ばしてください。

①六角棒レンチ(6 mm)で六角穴付きボルトを緩め、ハンドルバーを引き上げます。

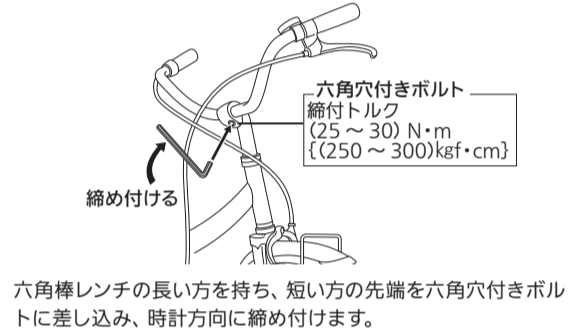


②ハンドルバーとハンドルステムの角度は、ハンドルバーの種類によって以下のような角度になるように調整します。

<中上がり、ノースロードなどの場合> <オールランダーの場合>

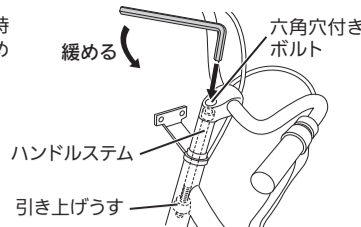


③六角棒レンチ(6 mm)で六角穴付きボルトを締め付けます。



■ハンドルステムの調整と固定

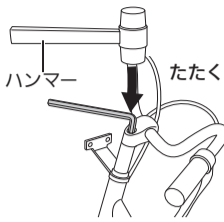
①六角穴付きボルトを反時計方向に2回転して緩めます。



お願い

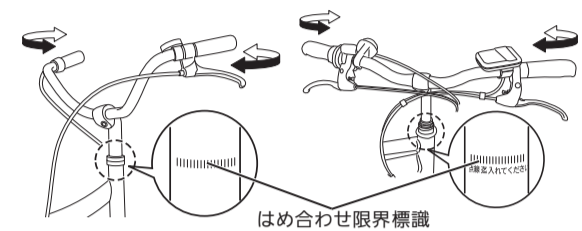
●六角穴付きボルトを緩めすぎるとハンドルステムの中の引き上げうすが落ちてしまいますので注意してください。もし、引き上げうすが落ちてしまったときは、ハンドルステムを抜いて自転車を逆さまにし、引き上げうすを取り出してください。

○六角穴付きボルトを緩めてもハンドルが動かない場合は、六角棒レンチ(6 mm)を六角穴付きボルトに差し込んだままハンドルが動きやすくなるまでハンマーでたたきます。※ハンドルが動く場合はたたき必要はありません。



②ハンドルを両手で持ち、回しながら上下に動かし、ハンドルの高さを調整します。

<中上りの場合> <オールランダーの場合>



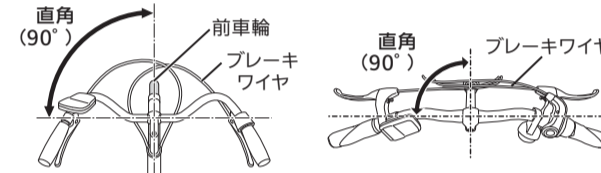
警告

■ハンドルステムは、はめ合わせ限界標識以上引き上げない
 (ハンドルステムの折れにより、転倒によるけがのおそれ)

禁止

③ハンドルバーと前車輪が直角になるように調整します。また、ブレーキワイヤが図のような状態になっていることを確認してください。

<中上がり、ノースロードなどの場合> <オールランダーの場合>



警告

■スタピタワイヤを引っ張りすぎない
 (走行中にハンドルがロックし、転倒によるけがのおそれ)
 ⇒必ずインジケータの黄色い調整ラインが一直線になっているか確認してください。

禁止

⑤スタンドを数回動作してハンドルのロック及び解除がスムーズに作動するか確認してください。スタンドを跳ね上げた状態でもスタピタが解除されない場合はインナーワイヤの引っ張りすぎです。スタンドを立てた状態にして、調整ねじを黒矢印(ワイヤが緩む)の方向に回して④の黄色いラインが一直線になるように調整してください。

⑥調整ねじで調整しきれない場合はインナーワイヤを組み直してください。調整後は必ずロックナットを締め付けてください。

警告

■ロックナットは確実に締め付ける
 (調整が狂い転倒や衝突によるけがのおそれ)

必ず守る

- ⑦ワイヤキャップを調整ねじに取り付けてください。
- ⑧スタンド側の余分なインナーワイヤを切断し、インナーワイヤキャップをカシメてください。

注意

■インナーワイヤの先端には、必ずインナーワイヤキャップを組み付ける
 (組み付けないとけがのおそれ)

必ず守る

注意

■前ハブキャップを組み付ける際、ハンマーなどで強くたたきすぎない
 (スピードセンサーが故障するおそれ)

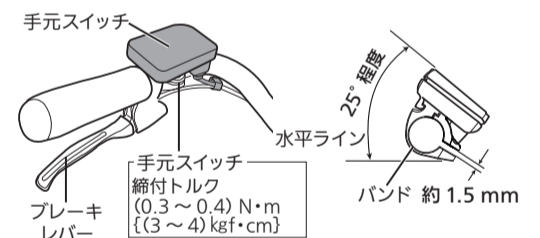
禁止

■手元スイッチの位置調整

○手元スイッチはブレーキレバー側に寄せ、運転者の方に向けて組み付けてください。また、バンドの隙間が約1.5 mmになるように締め付けてください。

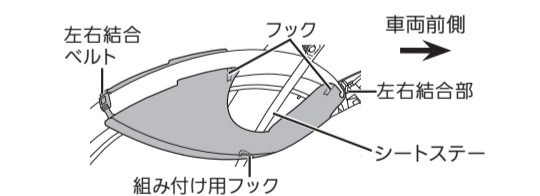
ご注意

●手元スイッチの取り付けねじは締めすぎると、変形・外観不良の原因になります。特に、電動ドライバーで締め付けを行う場合、設定トルクによっては、ナットが共回りしてしまうことがありますので、十分注意してください。



■ドレスガードの取り付け<装着車だけ>

- ①左右結合部を前側にし、組み付け用フックがシートステーの位置に合うように配置します。
- ②ドレスガードのフックをどろよけ内側に引っ掛けます。
- ③後側の左右結合ベルト部を押し込み、ガタの無いように調整します。

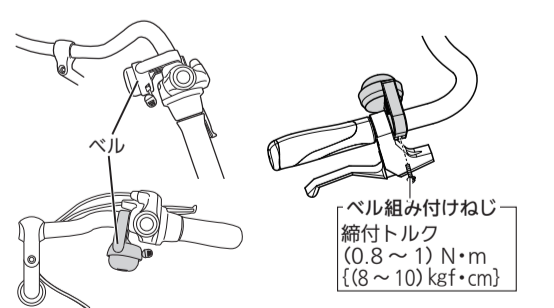


※ドレスガードの形状やフックの数は車種により異なります。

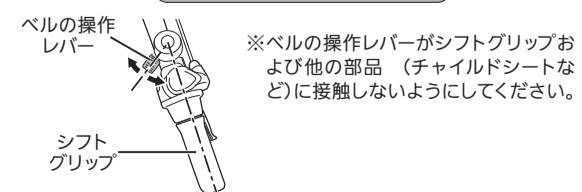
■ベルの位置調整

○図のような位置にベルを調整してください。

<インサイドベルの場合>



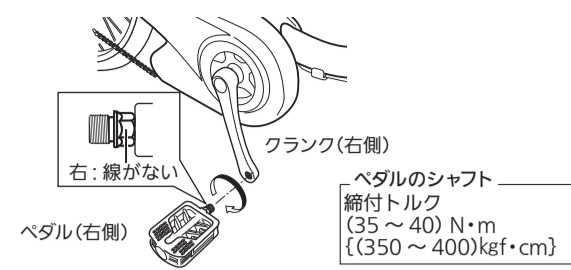
<チビマルベルの場合>



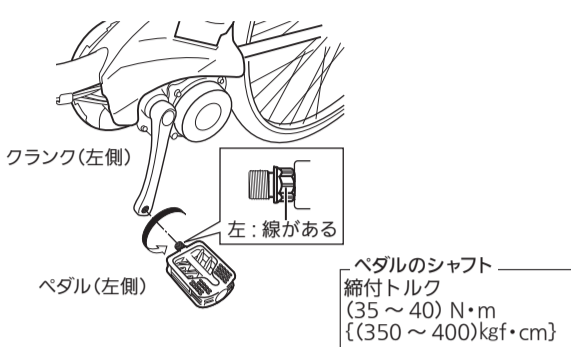
■ペダルの組み付け

※ペダルは左右でねじ方向が違います。右ペダルは右ねじ、左ペダルは左ねじです。

- ①クランク(右側)にペダル(右側)のシャフトを時計方向に回し、ペダルレンチで締め付けます。



- ②クランク(左側)にペダル(左側)のシャフトを反時計方向に回し、ペダルレンチで締め付けます。



※走行時のクランク回転方向が、ペダル締め付け方向です。

注意

■ヒゲ状のバリを取り除く (バリによるけがのおそれ)

※ペダルをクランクに締め付けた際に、ヒゲ状のバリが発生することがあります。バリが残らないように、工具(ラジオペンチ・ニッパーなど)で取り除いてください。このとき、けがをしないよう注意してください。

■ブレーキの調整

●ブレーキレバーの開き調整

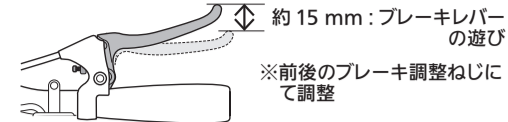
ブレーキレバーの開き調整は、ブレーキレバーを開放した状態で、レバー開き調整ねじを回して、操作しやすい位置(ブレーキレバーの引き始めに指の第一関節から第二関節がかかる位置が推奨)に調整する。
●ブレーキレバーを強く握って、レバーとグリップが付く場合は遊びを少なくして再調整してください。



●レバー開き調整ねじの無い機種もあります。

●ブレーキレバーの引きしろ調整

ブレーキレバーの遊びが約15mmになるよう、前後ブレーキの引きしろをワイヤ調整ねじで調整する。

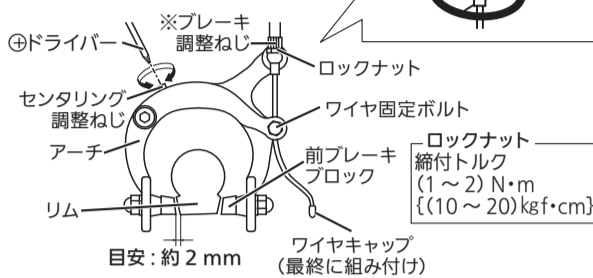


お願い

- 上記の調整範囲は目安です。調整後は必ずブレーキテストをしてください。
- 前後車輪の回転が重くないことを確認してください。

●前キャリパーブレーキの調整

- ①アーチを握った状態で、ワイヤをワイヤ固定ボルトに固定してください。
- ②ロックナットを緩める。
- ③ブレーキ調整ねじを回す。
- ④センタリング調整ねじで、リムと前ブレーキブロックの隙間が左右均等になるように調整する。
- ⑤走行してブレーキの利きを確認する。
- ⑥ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締めトルクで締め付ける。

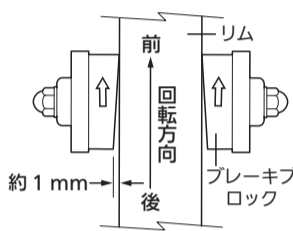


●前後ブレーキのブレーキワイヤ末端処理

○安全のためワイヤ末端にはワイヤキャップをカシメてください。

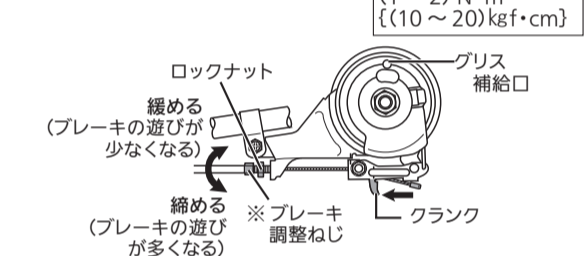
●前ブレーキブロックについて

○ブレーキブロックに方向性があります。ブレーキを上側から見て、矢印を進行方向に合わせてください。ブレーキブロックがテーパー状になっており、後側に約1mmの隙間ができて、異音防止の効果があります。



●後ブレーキの調整

- ①ブレーキ調整ねじのロックナットを緩める。
- ②クランクを押しながら、ブレーキ調整ねじを回す。
- ③走行してブレーキの利きを確認する。
- ④ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締めトルクで締め付ける。



お願い

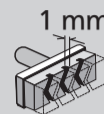
- 確実な制動力を得るために、通常約1~2年に1回程度はローラーブレーキ専用グリスを補給してください。
- ブレーキをかけた場合、音鳴りがしたり、ブレーキの利きが異常に強すぎたりしたとき、ブレーキグリスの不足が考えられます。ローラーブレーキ専用グリスを補給してください。

警告

■ブレーキグリスの補給には、必ずローラーブレーキ専用グリス(NBP002)を使用する (制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれ)

⇒補給する目安は1回約5gです。

■ブレーキブロックは、溝の残りが、1mmになるまえに交換する※

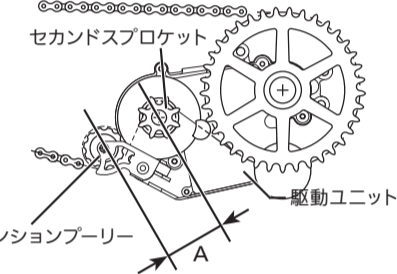


■ブレーキブロックは、リムにあった純正ブレーキブロックに交換する※

※(ブレーキが利かなくなり、スリップのため転倒によるけがのおそれ) ⇒ 補修部品の品番などは、弊社ホームページ、取扱説明書、パーツリストなどで確認してください。

■チェーンテンション(張り)の調整

- 出荷時、チェーンの張りは調整済みです。(A寸法: 60mm~70mm)
- メンテナンス時(チェーンが伸びた状態)にチェーンの張りをチェーン引きにて調整する場合、A寸法が65mm±3mmが適正寸法です。適正寸法を守らないと、音鳴り、チェーン飛びやチェーン外れの原因になります。



お願い

- チェーンを交換する際は、必ず純正チェーンを使用してください。

警告

- チェーン調整時、適正寸法を守る(チェーンが外れ、転倒によるけがのおそれ)

■リヤリフレクター(ソーラーオートテール2)

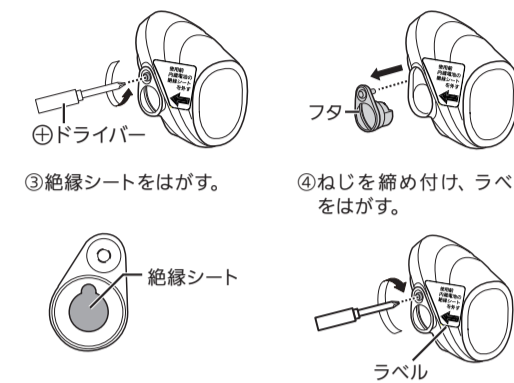
〈装着車だけ〉

このリヤリフレクターは充電用のボタン電池に太陽光発電(ソーラーパネル)で充電され、走行中に周囲が暗くなると自動で点滅し、停止すると消灯します(ただし、停止後も約1分間は点滅を続けます)。

- ご使用のまえに充電電池の絶縁シートを取り外し、直射日光下で約2時間充電してください。

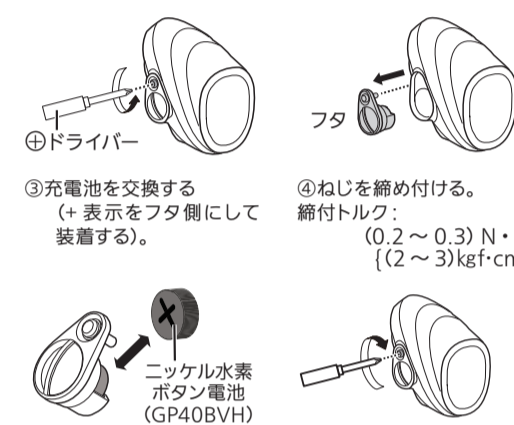
〈充電電池の絶縁シートの取り外しかた〉

- ①プラスドライバーでねじを緩める。
- ②フタを引き抜く。



〈充電電池の交換方法〉

- ①プラスドライバーでねじを緩める。
- ②フタを引き抜く。



お願い

- 交換用の充電電池は、「ニッケル水素ボタン電池(GP40BVH)」を使用してください。

■リヤリフレクター(ソーラーオートテール3)

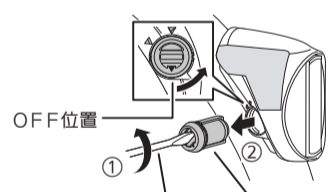
〈装着車だけ〉

このリヤリフレクターは充電用の円筒形電池に太陽光発電(ソーラーパネル)で充電され、走行中に周囲が暗くなると自動で点滅し、停止すると消灯します(ただし、停止後も約1分間は点滅を続けます)。

- ご使用のまえに電池ホルダーを①~④の手順でOFFからAUTOに差し替え、直射日光で4時間充電してください。

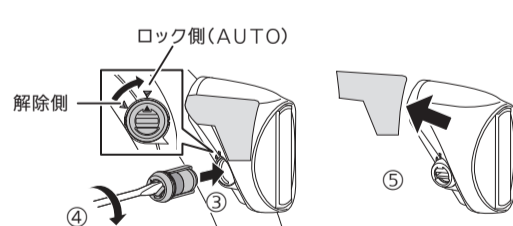
〈ご使用の前に〉

- ①電池ホルダーをマイナスドライバーで反時計方に回し
- ②まっすぐ引き抜く



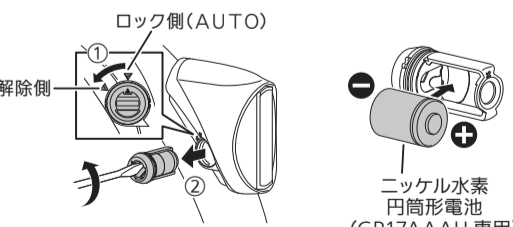
マイナスドライバー 電池ホルダー

- ③電池ホルダーの▲を本体の▼(解除側)に合わせてまっすぐ差し込み
- ④▼(ロック側<AUTO>)まで回す
- ⑤ラベルをはがす

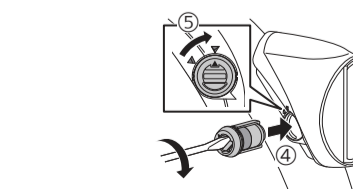


〈充電電池の交換方法〉

- ①電池ホルダーの▲を本体の▼(解除側)まで回し
- ②まっすぐ引き抜く
- ③電池を交換する



- ④電池ホルダーの▲を本体の▼(解除側)に合わせてまっすぐ差し込み
- ⑤▼(ロック側<AUTO>)まで回す



お願い

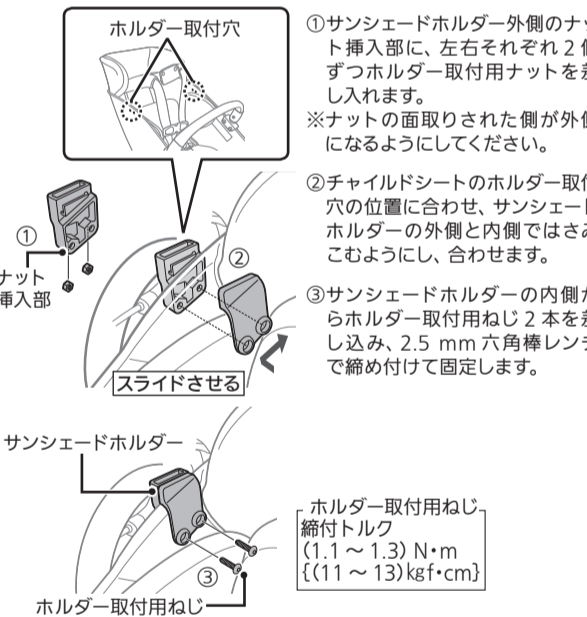
- 交換用の充電電池は、「ニッケル水素円筒形電池(GP17AAAH専用)」を使用してください。

■チャイルドシート用 サンシェードの組み付け

〈ギョット・クルームだけ〉

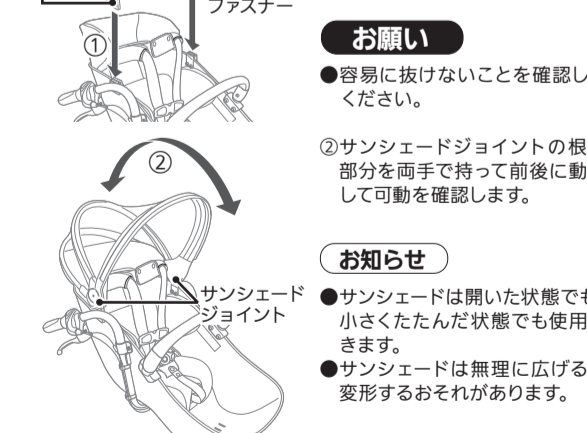
●サンシェードホルダーを組み付ける(左右共通)

※イラストは右側のサンシェードホルダーで説明しています。



●サンシェードを組み付ける

- ①左右のサンシェードジョイントのツメがサンシェードホルダーにかかるまでしっかり差し込みます(この時、連結用ファスナーが進行方向側になるようにしてください)。



お願い

- 容易に抜けないことを確認してください。

- ②サンシェードジョイントの根本部分を両手で持って前後に動かして可動を確認します。

お知らせ

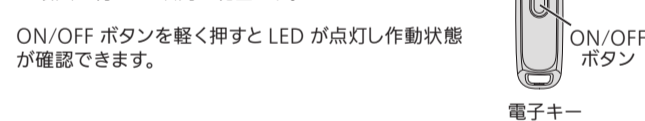
- サンシェードは開いた状態でも、小さくたたんだ状態でも使用できます。
- サンシェードは無理に広げると変形するおそれがあります。

■ラックシステム動作確認(装着車だけ)

- ①電子キーのON/OFF ボタンを長押しし、作動可能状態にする(電子キーと後輪サークル錠の相互認証)。
- ②手元スイッチの電源ボタンを押す。
- ③後輪サークル錠を開錠する。
 - ・電源ボタンを押すことで、後輪サークル錠が開錠されます。
 - ・開錠できない場合はアラーム音が鳴ります。
- ④後輪サークル錠が開錠されているか確認する。

緑色(作動可能状態)	ラックシステムの認証ができる ※通常はこの状態で使用します。
赤色(作動停止状態)	ラックシステムの認証ができない

※作動範囲は発信機位置より最小で約1.2m以内、最大で約3m以内の範囲です。



ON/OFF ボタンを軽く押すとLED が点灯し作動状態が確認できます。

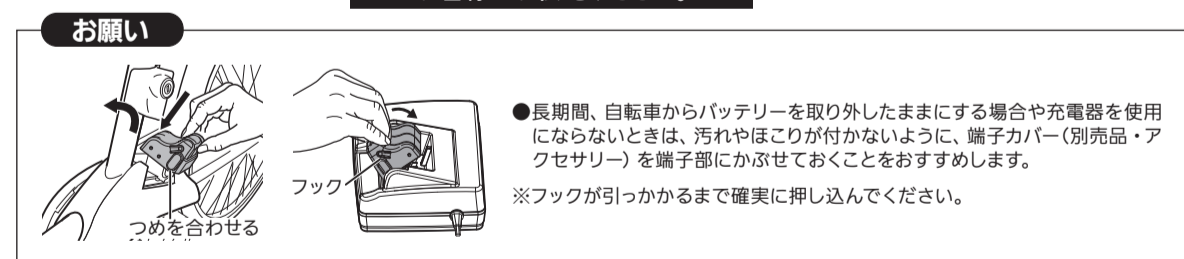
■未組み付け部品明細表

チェック	部品名	個数	チェック	部品名	個数
	ハンドルバー・ハンドルシステム(位置調整が必要) <ギョット・クルームは調整済み>	1 セット		手元スイッチ・ベル(位置調整が必要)	1
	ペダル	1 セット		セーフティーキャップ(ハンドルシステムねじ用) <ギョット・クルームは不要>	1
	サンシェードセット(組み付け用ねじセット含む) <ギョット・クルームだけ>	1 セット		ドレスガード <装着車だけ>	1

上記部品は梱包のために仮組み付けしている場合もありますので、取り付け状態や締め付けを必ず確認、調整してください。

■端子カバーの使いかた

お客様にお伝えください。



お願い

- 保証書に必要な事項をご記入いただき、「取扱説明書」とともに必ずお客様にお渡しください。(キーの番号は保証書に印字されています)。
- 防犯登録が義務化されていることをご説明いただき、登録を行ってください。
- 組み立て後、バッテリーを満充電してください。
- 3か月以上の長期保存の場合、およびお客様に商品をお渡す際にも、満充電をしてお渡しください。
- 組み立ての済んだ自転車は取扱説明書裏表紙の「点検・整備チェックリスト」にてチェックを行い、必ず実走によるブレーキテストを実施の上、お客様にお渡しください。 ※点検などに関して詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。
- メンテナンスする際にも組立説明書が必要になります。ご購入店舗で保管することをおすすめします。

標準締めトルク一覧表

部品名	トルク	換算値
M3	(0.8~1.3) N·m	{(8~13) kgf·cm}
M5	(3~4.5) N·m	{(30~45) kgf·cm}
M6	(6.5~9.5) N·m	{(65~95) kgf·cm}
ハブ軸 BC5/16	(18~26) N·m	{(180~260) kgf·cm}
ハブ軸 BC3/8	(35~43) N·m	{(350~430) kgf·cm}

※本文中に締めトルクの記載が無いねじ締結部は、上の表に従って組み立てを行ってください。